

お金はキレない

お金は木(気)にならない…「勝手に増えない」=「稼ぐもの」という感覚を、幼い頃から培うことが大切です。

大阪電気通信大学 金融経済学部
山本 利明 教授



コミュニティと人間

アグラという言葉がギリシャ語で広場という意味であることは本紙読者であれば周知のことでしょう。広場がコミュニティの中心となり、人のネットワークや信頼関係が生まれることによって社会全体の「幸福度」が増すことを、経済学や社会学ではソーシャル・キャピタル(社会関係資本)が機能していると表現します。最近の難しい学術用語を持ち出すまでもなく、「人間が社会的動物である」ことは、古代ギリシャの哲学者のアリストテレスが指摘しているところです。つまり一人では生きられない、相互に依存しあって生を全うするのが人間だとすれば、アグラの存在は何にも代えられない貴重なものとなります。

私事で恐縮ですが、東京と大阪のコミュニティを週の半分ずつ経験しています。こちらでは毎朝喫茶店で極上のコーヒーで活力をもらい、食事のバランスが悪くなると行きつけのフレンチレストランで栄養を補給します。もちろん、職場である大学でも様々な

人との交流で知的刺激を受けて、アグラのありがたさを日々実感しています。このコラムには一年ほど寄稿させて頂きましたが、今回は最終回にすることを編集長からご了解を得ました。お付き合いいただきまして、ありがとうございました。

最後に、私どもの大学がコミュニティへの貢献活動として開催した「終活」をテーマにしたシニア向け講座の内容を紹介します。講師をお願いした本学客員教授の木山順三氏によれば、終活には誰にも通用するような万能の方法はない。基本は残される人が困らないように考えて準備しておくこと。例えば、自分の銀行口座や保険契約のリストを作っておくだけでも残された者は助かるというものでした。もちろん、相続が争族にならないように遺言書を準備するのも一つの方法だが、これで全てが解決するわけでもないと例を通じてお話いただきました。皆さまのご参考になれば幸いです。